



「平成24年度アルコール問題研修会」の開催

(気仙沼保健福祉事務所)

3月5日に、気仙沼保健福祉事務所大会議室において、平成24年度アルコール問題研修会を開催しました。

気仙沼、南三陸地域では、震災で大切な人や財産、仕事などを失った悲しみや、その後の生活不安やストレスによって、大量飲酒やアルコール依存症などの問題が増加傾向にあります。



(相談場面の様子)



(「平成24年度アルコール問題研修会」の様子)

このため、東北会病院(仙台市)の石川達院長はじめ、同病院スタッフを講師に迎え、地域でアルコール問題の相談に対応している医療機関、市町、サポートセンターなどに勤務する職員を対象に、リスクの評価と段階に見合った支援手法等最新のアルコール依存症治療の現状が紹介されたほか、アルコール問題や、うつ、自殺予防に密接な関係がある飲酒を減らす指導の重要性についてお話がありました。

また、相談場面のロールプレイによって、リスクが低い人、危険飲酒の人、依存症の人の3例について、その特徴と具体的な対応例を実践的に学習しました。

「気仙沼地域グリーン・ツーリズム推進モデル・プラン提案会」の開催

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

3月18日、八瀬・森の学校(旧月立小学校)を会場に、宮城大学事業構想学部の風見正三教授の研究室による「気仙沼地域グリーン・ツーリズム推進モデル・プラン提案会」が開催されました。



(提案会の様子)

風見研究室では、昨年7月から気仙沼・唐桑地域にある地域資源の調査や掘り起こし、モニターツアーの開催などを行ってきました。今回

は、それらの結果を、学生の視点で取りまとめ、仙台等の都市地域から気仙沼地域をグリーン・ツーリズムや教育旅行で訪れる際に体験するモデル・プランとして、提案していただきました。



(学生による提案の様子)

モデル・プランの中では、「生きる力(自然)」、「スローライフ(時間)」、「ノスタルジー(ぬくもり)」という3つの地域資源を軸に、キャンドルを作り、それを夜に灯して楽しむなど、これまでになかった体験メニューも含まれていました。

今回提案されたモデル・プランについては、これから八瀬・森の学校が教育旅行等の受入れをする際の参考にしていく予定です。



(終了後、参加者による集合写真)

「気仙沼&南三陸地域 地産地消ときめきガイド」

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

気仙沼地方振興事務所農林振興部では、3月に、「気仙沼&南三陸地域 地産地消ときめきガイド」を発行しました。これは、国の緊急雇用創出事業を利用して、被災された方を雇用し、震災

後の気仙沼・南三陸地域の農産物・海産物直売所、農漁家レストラン、農漁家民宿・体験施設の現状を調査し、まとめあげたものです。

これには、気仙沼・南三陸地域の農産物・海産物直売所が20店、農漁家レストランが7店、農漁家民宿・体験施設が6施設掲載されています。

この冊子は、気仙沼地方振興事務所のほか、気仙沼市役所や南三陸町役場、管内の各観光協会などでも入手でき、また、下記のURLから閲覧することができます。気仙沼・南三陸の味や体験を楽しむ際の参考にしてください。

URL

<http://www.foodkingdom-miyagi.jp/e-book/#page=1>



(気仙沼&南三陸地域 地産地消ときめきガイド)

ギンザケの水揚げが行われています

(気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

震災前は、南三陸町の志津川・戸倉両地区で14経営体がギンザケ養殖を行っていましたが、震災による津波で養殖生簀および養殖していたギンザケを流出する等壊滅的な被害を受けました。現在は国のがんばる養殖復興支援事業を導入し、志津川・戸倉両地区で12経営体がギンザケ養殖を再開しています。



(銀乃すけ養殖部会の水揚げの様子)

今漁期は、3月7日から県漁協志津川支所銀乃すけ養殖部会が養殖したギンザケの水揚げが、4月15日からは戸倉地区ギンザケ部会が養殖したギンザケの水揚げが行われています。昨漁期は低水温で成長が遅く5月8日からの水揚げになりましたが、今漁期は志津川湾で冬季の海水温が昨年よりも高かったことから餌の食いつきが良く成長が良いため、例年並みの時期に水揚げが始まりました。平均魚体重は1.2～1.3kgで、休日を除くほぼ毎日2～5トンの水揚げが続いています。これまでの累計水揚量は銀乃すけ養殖部会で約37トン(4月20日現在)、戸倉地区ギンザケ部会で約49.5トン(4月末現在)に達しています。平均単価については、昨年度は原発事故の風評被害等により平均単価が240円/kgに暴落しましたが、今年度の初入札では614円/kgと例年より高値で取引され、現在は450～500円/kgと例年並みになっています。水揚げはこれから本格的になり、魚体も大きく美味しくなりますので、スーパーや小売店でギンザケがお目に留まりましたら刺身等で召し上がってはいかがでしょうか。



(水揚げされたギンザケ)

スマホをナビにぶらり旅 グーグルナビに対応した観光地図を作成 (気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

平成25年4月から始まった「仙台・宮城 Destination キャンペーン」の誘客支援の一環として、インターネット上に、アンドロイドアプリのグーグルナビに対応した、気仙沼・南三陸の観光スポット案内地図を作成しました。

スマートフォンの画面をクリックするだけで、交通手段に応じて、目的地までナビゲーションしてくれますので、不慣れな土地でも安心して観光地を巡るドライブが楽しめます。

観光スポットは「見る・泊まる・食べる・買う・体験する」に分類し、気仙沼市で125カ所、南三陸町で36カ所掲載しています。

気仙沼・南三陸地域にお越しの際は、是非ご利用ください。

URL <http://goo.gl/maps/zLJmg>



(「グーグルナビ」に対応した観光地図)

酒米の田植え作業が開催されました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

酒米サポータークラブによる酒米の田植え作業が5月18日に気仙沼市廿一地区で行われました。

酒米サポーターズクラブは、廿一地区で日本酒の原料となる酒米「蔵の華」作りを手伝っており、今年で12年目を迎えます。当日は、晴天に恵まれ、田植え日和となり、参加者全員が水田に入って、苗を手植えしました。

秋には収穫作業も予定されており、収穫後は美

美味しいお酒に生まれ変わります。



(田植えの様子)

モアイ像贈呈記念式典が開催されました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

5月25日、南三陸町の南三陸さんさん商店街において、チリ共和国政府関係者などが参加して、モアイ像贈呈記念式典が開催されました。

南三陸町とチリ共和国の交流は、昭和35年のチリ地震津波で被災したことがきっかけで始まりました。その後、復興30年を記念して松原公園にモアイ像が設置され、友好のシンボルとして親しまれてきましたが、東日本大震災の大津波で倒壊しました。

今回贈呈されたモアイ像は南三陸さんさん商店街に設置されており、高さは3m、重さは2トンあります。モアイ(Moai)には「未来に生きる」という意味が込められており、南三陸町とチリ共和国の友好の証として、また、東日本大震災からの復興のシンボルとして大きな役割を果たすことが期待されます。



(モアイ像贈呈記念式典の様子)

気仙沼港に初カツオを水揚げした船長に 南三陸米を贈呈しました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

で、気仙沼市魚市場は朝から活気きました。

この日は、気仙沼市魚市場において、初カツオの水揚げを祝う式典が開催され、気仙沼市の菅原市長、気仙沼漁業協同組合の佐藤組合長から、入港した第78大師丸の山田船長に記念品が贈呈されました。

今回の式典では、南三陸米地産地消推進協議会からもブランド化に取り組んでいる「南三陸米」が贈呈されました。「南三陸米」は、南三陸農業協同組合管内で収穫される「ひとめぼれ」のうち、栽培履歴が明確な1等米です。南三陸米地産地消推進協議会では、今後も「南三陸米」のPRに努め、地産地消を推進していきます。



(南三陸米贈呈の様子)